



生物資源科・緑地環境科1年

合同手植え実習

「八十八」の手間を知る

5月27日(水)学校水田で、生物資源科・緑地環境科の1年生が2クラス合同で手植え実習を行いました。4月末に行ったイネの種まき実習から約1ヶ月、生徒たちは米作りの第一歩となる田植えに挑戦しました。

快晴となった当日、生徒たちは苗の持ち方や植え付けの深さについて説明を受けた後、裸足で水田に入り1株ずつ丁寧に植え付けを行いました。初めて水田に入る生徒も多く、足を取られながら苦戦する様子も見られましたが、友人同士で声を掛け合いながら作業を進めていました。今回は2クラス合同での実習でしたので、学科の枠を越えて交流を深める良い機会となりました。



裸足での手植えに苦戦する1年生たち

「米」という漢字は、米作り「八十八」もその成立の理由だと言われている。この説は、米作りの大変さや農家の苦労を伝える話としても、よく知られています。これから秋の収穫に向けた生育調査や管理作業なども行うことで、生徒たちが自ら植えたイネの成長を見守りながら、さらに学びを深めていくことを期待します。

～活動紹介～ さなぶり 田の神に感謝 早苗振り実施!!



「早苗振り」とは、田の神様に田植えが無事に終了したことの感謝を伝え、秋の豊作をお願いする伝統的な農業行事です。また農作業に従事した人たちに労う側面もあります。

本校では6月15日(月)に、生物資源科の全学年で早苗振を実施しました。生徒たちは水田に向かって、全員で感謝と祈りを捧げた後、農場のクリーンアップを行い、収穫に向けて管理を頑張ろうと誓い合いました。

また、各自食材を持ち寄ったの食事会や腕相撲大会などのレクリエーションを行い、学年の絆を超えて親睦を深めました。

「早苗振り」は秋の収穫に向けての意識を高めるとともに、生徒同士のつながりを深める貴重な機会となっています。

写真(上) 生物資源科全員で、水田
向かい豊作祈願
(下) 雨天のため、室内練習所
で行ったレクリエーション

農業クラブ

農業の熱い戦い始まる

今月末は立て続けに、農業クラブ県大会が実施されます。本校からは生物資源科・緑地環境科合わせて19名の生徒が参加を予定し、最優秀賞・上位大会出場に向けて勉強・練習に励んでいます。

当日は日頃の学習の成果を十分に発揮し、北鷹生の力を見せたいです。

FFJ公式マスコットの「のうくっく」です!



- 6月24日(水) 農業情報処理競技会
- 6月25日(木) 各種発表会1日目
平板測量競技会
- 6月26日(金) 各種発表会2日目
- 6月30日(火) 家畜審査競技会

大曲農業高校で行われた家畜審査競技会の勉強会に参加し、背線や肋の張りなどの見極め方を学びました。

